

花のお江戸を歩く会

新緑の多摩川沿いを歩く

「田園調布～六郷用水・桜坂～新田神社」

2013年4月12日(金)

＜散歩道のご案内＞

イギリスの田園計画を参考に日本で最初の本格的な文化住宅街である「田園調布」から新緑が清々しい多摩川台公園へ。龍馬伝でお馴染みの福山雅治デビュー曲の舞台となった「桜坂」を経て、散歩道「六郷用水緑道」を楽しみながら新田義興を祀る新田神社など歴史的な寺社が集まる下丸子・矢口まで足を延ばします。

＜散歩道の順路＞

東急東横線田園調布駅→超高級住宅街→宝来公園→多摩川台公園→古墳群→調布浄水場跡・湿性植物園→多摩川浅間神社→六郷用水緑道→東光院→桜坂（福山雅治縁）→おいと坂→【ランチタイム】→蜜蔵院→鶴木公園→光明寺→蓮光寺→頓兵地蔵→新田神社→東急多摩川線武蔵新田駅（解散）

＜散歩道の順路＞

① 田園調布の歴史

田園調布のまちは大正12年の田園都市株式会社の土地分譲に始まりました。開発するに当たり、渋沢秀雄（田園都市株式会社の設立者であり渋沢栄一の子）はアメリカやイギリスに視察に行き、その開発理念を田園調布の街づくりに取り入れました。

分譲が開始された当時日本においては産業構造の変革が起こり、ホワイトカラーが表れた頃でした。その新中間層は従来型の職住近接の必然性はなく、環境の良い郊外に家を求めはじめました。田園調布の開発はちょうど彼らの出現の時期と思想に合ったということです。彼らのライフスタイルは時代時代で流行の最先端を担ってきたのでした。

田園調布には、新中間層の上層部の人や軍人、大学教授、医師といった人々や理念を抱いた開発者自らが住み着き、志の高いコミュニティーが形成されました。街の運営は自治会である「田園調布会」によって自らが運営し、開発当初の理念を受け継いだ紳士協定である『田園調布憲章』のもとに街が守られ続けてきました。開発当初の「土地譲渡契約書」には建築に対する条件が付されておりました。それには、建蔽率やセットバックの概念などが記されており、その紳士協定によって街の環境が守られてきたとも言えます。→鳩山由紀夫邸→五木ひろし邸など→黒松

◆田園調布在住の著名人◆(参考)

石原慎太郎・作家、東京都知事

五木ひろし・歌手

犬丸一郎・帝国ホテル社長

牛尾治朗・ウシオ電機会長、元経済同友会代表幹事

梅沢富美男・俳優

小林よしのり・漫画家

曾野綾子・作家、三浦朱門の妻

鳥羽博道・ドトールコーヒー会長・創業者

中井貴一・俳優

長嶋茂雄・プロ野球・読売ジャイアンツ終身名誉監督

はかま満緒・放送作家

鳩山由紀夫・政治家、前内閣総理大臣

松浦勝人・エイベックス・グループ・ホールディングス社長

三浦朱門・作家、元文化庁長官

② 宝来公園

田園調布駅から放射状に伸びるいちょう並木の南西の端に位置する自然林を生かし、武蔵野の面影をしのばせる清閑な公園です。この公園の前身は大正14年、武蔵野の旧景を保存し永く後世に残すために、田園調布会が街の一角の潮見台の地を広場としたことからはじまります。後の昭和9年田園調布会から東京市に寄付され造成整備の後昭和19年4月「宝来公園」として開園しました。区への移管は昭和25年10月1日です。園内には梅、桜、ツバキ、サザンカ、クヌギ、シイなど約70種1,500本の花や樹木があり、池には300本ほどのキショウブが群生しています。

③ 多摩川台公園

公園は多摩川に沿って伸びる丘陵地に約750メートルにわたって展開しています。面積は66,661平方メートルと広大なうえ、自然林の道、古墳、展望台、水生植物園、四季の野草園、あじさい園、山野草のみち、ふたつの広場など見所は豊富です。また、亀甲山古墳、宝来山古墳をはじめとする多摩川古墳群の散策や、桜（約300本）、あじさい、ホタルブクロ、彼岸花など四季折々の花も楽しめます。

④ 古墳群

多摩川台公園には亀甲山古墳と宝来山古墳の2つの大型前方後円墳と、8基からなる多摩川台古墳群との10基の古墳が並んでいて、公園を散策すると間近に見ることが出来る。これらは田園調布古墳群と呼ばれるものの一部で、これはさらに野毛古墳群と一緒にあって荏原台古墳群を形成する。亀甲山古墳は周囲に柵があつて中に入れないが、宝来山古墳はくびれ部を歩道が横断し、上がつて眺めて反対側に下りることができる。また、多摩川台古墳群は上を木立が覆い、両側に歩道が通つて3カ所の横断歩道もあつて、横をゆっくり散策が出来る。

⑤ 調布浄水場跡・湿性植物園

この区域は、その昔、多摩川の水をくみあげて、地域の飲み水を供給していた「調布浄水場」の跡地を利用して整備したものです。昔使用されていた浄水場の姿がよくわかるように、その形をできるだけ残すようにしました。沈でん池だった所には、池をつくり湿生植物を植え、ろ過池だった所には、四季の野草と地被植物を植えました。また地下の配水池だった所には、雨水を貯めて、池の補給水として利用しています。

⑥ 多摩川浅間神社

創建は鎌倉時代の文治年間（1185年～1190年）と伝えられる。源頼朝が豊島郡滝野川松崎に出陣した時、夫の身を案じた北条政子が後を追って多摩川まで来た。その時わらじの傷が痛んだため、この地で傷の治療をすることにして逗留した際に亀甲山（かめのこやま）へ登ってみると富士山が鮮やかに見えた。富士吉田には、自分の守り本尊である浅間神社があるので、政子はその浅間神社に手を合わせ、夫の武運長久を祈り、身につけていた正観世音像をこの丘に建てたという。それ以来、村人たちはこの像を「富士浅間大菩薩」と呼び祀ったのが、この神社の起こりとされている。

その後、承応元年（1652年）5月に浅間神社表坂の土止め工事をしていた時に、九合目辺りから正観世音の立像が発掘された。多摩川で泥を洗い流すと片足が欠けていたため、新たに足を鑄造して祀り、6月1日に神事を行ったという。これにならい、現在も6月に例祭を行っている。

⑦ 六郷用水緑道

徳川家康の新田開発政策にそって六郷領（大田区）の開発を目的に代官小泉次大夫が慶長2年（1597）に開さくを始め、十余年を経て完成した用水堀である。「次大夫堀」とも呼ばれた。小泉次太夫が58歳から73歳までの晩年のことであったようだ。当時は、北多摩郡和泉村（狛江市）で取水し、多摩川に平行して掘られ、世田谷領を貫流した。全長は23.3kmあった。堀の幅は、世田谷領では平均約4.5m程あったらしい。上沼部、鶉の木に至り、鶉の木（目蒲線鶉の木駅）で六郷羽田方面と池上・入新井方面に分れていた。主に六郷領（現大田区六郷付近）の35ヶ村を灌漑する目的だったが、この用水が通る世田谷領14ヶ村も恩恵にあずかった。

⑧ 東光院

沼部駅の北に東光院（田園調布本町）がある。昔は、この寺の側を次太夫堀・六郷用水が流れ、石橋があった。今は、用水跡を説明する案内板が建っているだけである。有慶山延命寺、東光院と号する。真言宗智山派で小杉村最明寺の末である。開山は義賢和尚で元禄三年（一六九〇）二月寂。多摩川園の浅間神社と浅からぬ関わりがある。浅間神社の条でも触れたが、源頼朝の妻北条政子の守り本尊が浅間神社に祀られた。その観音菩薩像が、明治四年（一八七一）六月一日に東光院に移された。新政府の政策による太政官令によるものだった。

以後、六月一日を祭日ときめ、約三十センチの高さの銅製の菩薩像を神輿に乗せ、一日だけ東光院から浅間神社へ返した。今は、祭礼はない。

境内に「勇士碑」がある。明治維新の激しい奔流の中で、誤解にもとづく殺傷の犠牲となった三人の男たちへの追悼碑である。激動の大転換期の歴史の舞台で、こと志とちがいが、石ころのように見捨てられ、葬り去られていった人々が、以下に少なくなかったかを物語る一例であろう。「勇士碑」は、境内へ入って左手、大銀杏の樹の下、大師像の裏のところにひっそりとある。某藩士とのみ記された三名は、『民衆と意志の疎隔を招来し、群衆の憤怒にあい』、明治元年(一八六八)六月五日、一人は千束池畔で斃され、残りの二人は逃げまわったあげ句、多摩川原で村民により虐殺されたのである。碑文末尾に「施主当村赤門森某」とあるが、これは川原で殺害された二人が、寺と間違い逃げこもうとした家の主・医者である。医者入門が赤門だったわけで、森は彼らを惨死せしめた責任を感じ追悼文を草した。

⑨ 桜坂(福山雅治縁)

2000年を代表するヒット曲となった福山雅治の「桜坂」。この「桜坂」は、東急多摩川線の沼部駅からほど近い大田区田園調布本町に実在します。普段は閑静な住宅街のなんでもない坂道が、桜の季節のほんの2週間程だけ、桜のトンネルのようなみごとな景観を創り出して、そこを通る人の目を楽しませてくれます。

地元の人の間では、中原街道から多摩堤通りに抜ける道として、昔から桜の素晴らしさは有名でしたが、福山雅治の唄がTV番組「未来日記」のテーマソングであったこともあって、「桜坂」のヒットでその名が全国に知れわたってからは、この坂を目的にここを訪れるカップルが絶えません。桜の季節の休日ともなると多くの人で、渋滞がおこるほどになりました。

《福山雅治デビュー曲「桜坂」》

♪～君よ ずっと幸せに 風にそっと歌うよ
Woo Yeah 愛は今も 愛のまま
揺れる木漏れ日 薫る桜坂
悲しみに似た 薄紅色
君がいた 恋をしていた
君じゃなきゃダメなのに ひとつになれず
愛と知っていたのに
春はやってくるのに
Woo Yeah 夢は今も 夢のまま
頬にくちづけ 染まる桜坂
抱きしめたい気持ちで いっぱいだった
この街で ずっとふたりで
無邪気にすぎた約束 涙に変わる
愛と知っていたのに
花はそっと咲くのに

Woo Yeah 君は今も 君のままで
逢えないけど
季節は変わるけど
愛しき人
君だけが わかってくれた
憧れを追いかけて
僕は生きるよ
愛と知っていたのに
春はやってくるのに
Woo Yeah 夢は今も 夢のままで
君よ ずっと幸せに
風にそっと歌うよ
Woo Yeah 愛は今も 愛のままで

⑩ おいと坂

かつて、坂下に「雄井戸おいと」と呼ばれる井戸があり、旧中原街道を隔てて西側にあった「雌井戸めいと」とともに人々に親しまれてきました。地元の伝説によれば、北条時頼がこの地を訪れた際、雄井、雌井の水により病をいやしたといわれています。おいと坂は、この「雄井」に由来するのといわれています。今でこそ住宅街の中のあまり目立たないまっすぐな坂道となっていますが、耕地整理によりまっすぐになるまでは、竹やぶの中の急な、曲った坂道であったと伝えられています。

⑪ 蜜蔵院

創建の年代は明らかではないが、鎌倉時代と推定される古刹。江戸時代から通称「庚申さま」と呼ばれて地域の人々に親しまれてきた。境内には本堂のほか大慈閣や金剛尊院などが立ち並ぶ。現在の本堂は昭和18年(1943年)の建造。寺には木造の弘法大師坐像、木造寄木造りの大日如来坐像、木彫寄木造りの青面金剛及び二童子四夜叉立像が安置されている(非公開)ほか、境内には寛文元年(1661年)造立で、大田区では最古の庚申供養塔があり、これらはいずれも大田区の有形文化財に指定されている。→**鶴**

木公園

⑫ 光明寺

東急多摩川線下丸子駅の北西、徒歩5分。天平年間(729-749年)に行基が開き、のちに空海が再興した七堂伽藍の大寺だったといわれる。江戸時代になって浄土宗に改宗した。鎌倉から安土桃山時代にかけて造られたといわれる多数の板碑があることで知られており、環状8号線道路建設による墓地移転などのため寺域は縮小したが、山門、本堂などが往時の面影をとどめている。

⑬ 頓兵地藏

頼兵衛は、この付近で起きた新田義興の謀殺事件をもとに、江戸時代に作られた浄瑠璃「神霊矢口渡」（平賀源内作）の話に、船頭役で登場する人物の名である。この地蔵は、いつしか頼兵衛が謀殺に加担したことを悔いて、その冥福を祈って建てたものと伝えられ、新田義興に関わる伝説のひとつとなった。義興の事件とは、南北朝時代に活躍した南朝方の勇将新田義貞の子義興が、延文三年（南朝）、正平十三年（北朝）（1358）、北朝の足利方にねがえった旧臣竹沢右京亮や江戸遠江守らに謀られ、矢口の渡しで船を沈められて悲惨な最期を遂げたというものである。

⑭ 新田神社

当神社の御祭神である『新田義興公』は、新田義貞公の第二子で幼名を徳寿丸といい、元服の折には後醍醐天皇より『義貞の家を興すべき人なり』として『義興』という名を賜り、「従五位左兵衛佐」に任ぜられました。ところが足利尊氏が謀叛を起こし、父義貞公亡き後、義興公はよくその意志を継がれ新田一族を率いて吉野朝（南朝）の恢復に尽力をされました。そして、武蔵野合戦等を始め各地に奮戦され、終始一貫その忠義を尽くされましたが、正平十三年（1358年）十月十日、足利基氏の執事である畠山国清、江戸遠江守らの卑怯なる謀略により、多摩川の「矢口の渡」で壮烈なる最後を遂げました。

その後、義興公の怨霊が現れ悪計加担の者どもに祟りを及ぼしたり、夜々「光り物（火の玉）」が矢口付近に現れて往来の人々をも悩ますようになりました。そこで義興公の御霊を鎮める為に、義興公の墳墓の前に社殿が建てられ、『新田大明神』として広く奉られました。これが『新田神社』の起こりであります。

社殿後部の御塚は、御祭神新田義興公の御遺体を埋葬した所で、直径約十五メートルお円墳である。この中に入ると必ず祟りがあるというところから「荒山」「迷い塚」などともいう。

境内の樹齢七百年に及ぶ樺は過去に落雷や戦災によって、幹が大きく裂けているが、毎年新緑の季節には青々とした葉を繁らせる。また古木上部には、とても珍しい「宿り木（植物）」が寄生しており、早春、淡黄色の小花が咲く。

このために、この御神木に触れると「健康長寿」「病氣平癒」「若返り」の靈験があるという古老の言い伝えがある。この御神木の御加護をいただくには、左側の鳥居より中に入り、できるだけ長く御神木に触れて靈気を感じ取って下さい。

《お帰りは東急多摩川線武蔵新田駅》